

環境工学連合講演会の運営の歩み

「環境工学のフロンティア」を統一テーマとする第1回環境工学連合講演会の開催は1986年3月、当時の元号は昭和でした。30年余りにわたる平成の間に本講演会は回を重ね、今回、第32回の講演会は新元号令和のもとでの初めての開催となります。初期から2005年の第20回までは、日本学術会議社会環境工学研究連絡委員会環境工学専門委員会が主催母体でしたが、2005年10月を期初とする第20期からの日本学術会議の組織改変に伴い、本講演会の主催母体は土木工学・建築学委員会へと移行しました。

本講演会の運営においては、当初から、土木学会、日本化学会、日本建築学会、化学工学会、日本機械学会、空気調和・衛生工学会、日本水環境学会、資源・素材学会の8学会に、輪番で幹事学会を務めていただけてきました。毎回、幹事学会が運営委員会を組織して開催内容を企画し、日本学術会議に対して主催行事の申請を行って許可を得る手順であったため、効果的な広報、安定的な運営、中長期的な方針の検討が行いにくいなどの課題がありました。このため、2016年の第29回講演会の開催時に環境工学連合講演会のあり方に関する打合せ会を開催して以降、日本学術会議第23期土木工学・建築学委員会学際連携分科会のもとで、運営体制の再編について検討を進めました。その結果、土木工学・建築学委員会傘下に環境工学連合小委員会を設置し、幹事学会と協力して講演会の企画、実行にあたる案を承認いただきました。日本学術会議の第23期から第24期への移行により、上位の分科会は企画分科会へと変更されましたが、環境工学連合小委員会は23期を引き継ぐ形で設置され、昨年開催した第31回講演会から、企画や開催準備を新たな運営体制のもとで実施しています。講演会の企画・運営を安定的な軌道に乗せることが、小委員会に課せられた重要課題ですが、過去の講演会などの活動記録の蓄積・公開など、中長期的な課題の検討にも順次着手しています。

第32回は小委員会設置後第2回の開催であり、同時に8幹事学会の4巡目の最後の開催でもあります。次回から5巡目となる今後の運営においては、従来の8幹事学会を中心としつつ、副担当の学協会にも運営に協力いただく方針としており、今回は2学会に副幹事学会をお願いしております。

移行期ゆえの新たな課題への対処も含め、主幹事学会の資源・素材学会の関係各位に多大なご尽力をいただいたことに謝意を表するとともに、本講演会に共催者として参画いただいている各学協会に、新たな運営体制のもとでの一層のご協力をお願いする次第です。

令和元年5月21日

日本学術会議土木工学・建築学委員会
企画分科会 環境工学連合小委員会
委員長 森口祐一